



調査完了報告「アカガシラカラスバト生息調査」

この報告は、2001年11月～2002年3月の間、小笠原諸島弟島で行った調査結果です。  
報告書から抜粋して調査結果を報告します。

アカガシラカラスバト(*Columba janthina nitenns*)は、現在小笠原諸島で最も絶滅が危惧されている鳥です。カラスバト(*Columba janthina*)の小笠原諸島固有亜種で、国の天然記念物(昭和44年)、国内希少野生動植物(平成6年)に指定され、レッドリストでは絶滅危惧・Bに分類されています。

弟島は、戦前は集落があって耕作、牧畜が行われていたが、戦後は無人島となっており、安定して上陸できる湾がないため、調査員は、潮の状況を判断し父島から傭船で約30分をかけて島に渡って調査を行った。

〔現地調査の結果〕

現地調査を、アカガシラカラスバトの繁殖期に合わせて2001年11月22日、2002年2月1日、2月2日、3月12日、3月19日の合計5回行った。弟島の縦走路(旧道)に沿って調査ルートを設定し、踏査による目視観察と鳴き声の収集に努めた。

- ・2001年11月22日15時15分頃、島の南部傾斜地の林内で1羽のアカガシラカラスバトを目撃したが、同個体は樹冠を抜けて、斜面上部へ飛び去った。過去に、この付近での目撃情報は無い。
- ・2002年2月2日 前回の目撃個所から約200mの地点でアカガシラカラスバトの鳴き声を確認した。過去には、この地点から20～30m北で目撃されている小さな沢がある。
- ・2002年2月1日、3月12日、3月19日 アカガシラカラスバトを目撃することができなかった。

〔調査結果の評価〕

アカガシラカラスバトを視認できる範囲は限られているが、その鳴き声はよく通るため  
広範囲で確認できるはずであるが、今回の調査では鳴き声の確認は1回限りであった。弟島での生息状況を明らかにするには残念ながら不十分な結果となった。

小笠原諸島全体でもアカガシラカラスバトの生息数は20羽以下であろうとのいわれており、弟島では危機的状態にあることは間違いないようである。

しかし、島内にはアカガシラカラスバトが好む餌樹種(ムニンシロダモ、シマホルトノキなど)と水場がある地域があり生息している可能性が考えられる。しかし、今回の調査でノブタ、ノヤギ、ネズミ類に加えてノネコの存在が明らかとなり、アカガシラカラスバトの生息環境は決して良好ではない。

[閉じる]